

# Face to Face

TICO は徳島発！保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター No.51 2018年7月号

ザンビア心臓外科チームが来日

⇒p.1

TICO が応援するボランティア1 (Dr.K)

⇒p.2

TICO が応援するボランティア2 (Dr.三好康広)

⇒p.3

クラウドファンディング目標達成のお礼

⇒p.4



## ザンビア心臓外科チームが来日・日本の心臓手術を勉強しました！

TICO が行っている「ザンビア大学付属教育病院(UTH) 心臓血管外科チーム養成プログラム」では、これまで TICO の日本人チームがザンビアに渡航して技術移転に取り組んできましたが、今回は、UTH のザンビア人医師チームが日本にやってきました。4週間という短い時間でしたが、彼らにとっては、刺激的で実り多い時間になったようで最後に行われた成果報告会では、目を輝かせながら発表を行い、その後、満面の笑みを浮かべて帰国の途につきました。

昨年9月から始まったプロジェクトで、11月に初めての心臓外科手術、2月に初めての人工心肺手術を経験し、今回4人の医師が来日、徳島赤十字病院と四国こどもとおとなの医療センターにわかれて4週間の研修を行いました。ザンビア側が資金を出す都合で予定より1カ月以上来日が遅れ、2病院には多大なご迷惑をおかけしたのですが、医師たちを快く受け入れ、手術の見学やカンファレンスへの参加だけでなく、快適な住居環境を用意していただき、手術練習や歓迎会、小旅行なども行っていただきました。

医師たちは、赴任初日から手術室、ICU、休日も緊急手術など、とてもハードな内容でしたが、たくさんの経験を積むことができました。自国との違いに驚くことが多かったと思いますが、彼らなりにザンビアをどう変えようか考えるヒントはつかんだと思います。

Dr.エマニエル

「たくさん患者さんが待っている、VSDの手術をマスターしたい」

Dr.エドワード

「心臓外科のパイオニアになるためにもっと知識や技術が必要」

Dr.フェリックス

「ザンビアの患者さんの予後を変えたい、他の医師にも教えたい」

Dr.ジワ

「スタッフ全員が適正な知識と技術をもたないといけない」

それぞれが、前向きな感想をもって帰国することができました。

今回、研修を快く受け入れていただいた徳島赤十字病院と四国こどもとおとなの医療センターの皆さまには、心より感謝を申し上げます。

彼らがザンビアの心臓外科のパイオニアになることを願って、これからも支援を続けていきます。



☆研修先にて、充実した時間

## 小児外科医としてザンビアでできること ザンビア大学教育病院訪問の報告

小児外科医 Dr. K  
(写真左から4人目)

高校2年の時に、地元の英語塾で出会った「ユニセフ 50 年の歩み」という英語教材を見て、小児国際医療協力を志してから約 20 年。ようやく念願叶って、アフリカザンビアの地に足を踏み入れることができた。地元の国際協力団体 TICO の一員として、首都ルサカにあるザンビア大学小児外科を訪れたのだ。

ザンビア大学小児外科は、1983 年に日本の支援で建設された小児外科専用の手術室(3 部屋)で、国内最多の年間 2000 例の手術を行っている。「ドクター、この建物は、日本が建ててくれたんだよ！見て、このサンヨーの医療用冷蔵庫なんか、35 年間ずっと動いてるよ。日本製って本当に素晴らしいね！」何万人もの子供達の命を救ってきた手術室が、日本の支援で作られたと聞くと、本当に誇らしく感慨深い気持ちになる。日本の国が行ってきた「金にものを言わせた」国際協力も捨てたもんじゃないな、と正直思った。

到着早々、小児外科部長の Dr. Bvulani に声をかけられた。「Dr.K、ちょっと変わった横隔膜ヘルニアの子がいるから、一緒に診て欲しいんだ。」

患者さんは生後 2 週目の男児。呼吸障害・心嚢液貯留(心臓を包む膜と心臓との間に液体がたまることで、心臓や肺の圧迫症状を呈することがある)が見つかったため、液体を抜く処置を行ったが、良くならないために UTH に紹介された。さらに、CT を良く見てみると横隔膜の中心部で、肝臓と大腸の一部が、心臓に向かって突出しているように見えるため、横隔膜ヘルニアも疑われているという。



横隔膜ヘルニアは、生まれつき横隔膜の一部に穴が空いている病気で、腹腔内臓器(腸・肝臓・脾臓など)が、胸腔に向けて脱出して、様々な症状を引き起こす。一般的には、横隔膜の外側(特に左側に多い)に穴が空いていることが多い。しかし、この男児は横隔膜の外側ではなく中心部に欠損が疑われ、さらに心嚢液もたまっていたため診断に苦慮していたのだ。

「間違いない、これは Central tendon defect (横隔膜腱中心欠損)です。」新生児室で、使いなれた日本製のエコー(日本が 2000 年代に寄付したフィリップス製のものを)を胸とお腹に当てて私は確信した。Central tendon defect は、1 歳以下の小児では世界で 15 例程度しか報告されていない非常に稀な横隔膜ヘルニアで、心嚢液貯留と肝臓の脱出を特徴とする。まだ教科書にも載っていないような病気であるが、偶然にも前任の病院で同様の症例を経験し、その診断や治療に関して熟知していた。Dr. Bvulani に、これまでの報告例と経験から、ベストと思われる手術方法について助言した。

そして迎えた手術当日の朝。前日の夜に緊急来院した気管内異物の患児に人工呼吸器を使用しなくてはならなくなったため、手術は延期になった。子供用の人工呼吸器は 2 台しかなく、もう 1 台はさらに別の患児に使用中だったのだ。3 日後、人工呼吸器が使用できるようになるまで、患児は元気に持ちこたえてくれた。

全身麻酔下の開腹手術を行った。TICO から寄付してもらったインソジンドレーブを貼付して上腹部横切開で開腹。やはり肝臓脱出を伴う Central tendon defect であった。TICO から寄付してもらった専用の針糸を 11 針使用して横隔膜ヘルニア門を修復した。約 2 時間の手術は無事成功した。

術後の経過も良好で、術後翌日にはミルクを飲み始め、術後 3 日目には、元気に退院していった。

貴重な日本での経験や設備・資材が、遠く離れた国ザンビアで生かされた瞬間だった。ザンビアと日本が繋いだ一つの命と言っても、過言ではないと思う。

また、都心部の医療のみではなく、ザンビア僻地の医療を知るために、①ザンビア僻地でモバイルクリニックを運営される山元香代子先生の活動に参加、②Zimba Mission Hospital で産婦人科をされている三好康広先生の診療を見学した。自動車を持たず、公共交通機関のないザンビアの僻地住む人々にとって、医療を受けることは本当に困難な事なのだと実感した。

以上、このような貴重な機会を与えて頂いた吉田先生をはじめ、TICO 関係者の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

## TICO が応援するボランティア 2

ジンバミッションホスピタルから  
2年目の報告

産婦人科医 Dr.三好康広

皆さんご無沙汰しております。ザンビアの Zimba Mission Hospital の三好康広です。

早いものでザンビアに来てもう2年が経ち、任期も6月末でひとまず終了いたします。この2年間、地域の母子保健の最前線で働いて参りました。1年目は環境に慣れること、目の前の患者さんを救うことととにかく必死でしたが、2年目になると少し気持ちの余裕も生まれ、全体が見渡せるようになってきました。残念ながらアフリカでは、病院でいくら医者が頑張っても、救えない命がたくさんあります。

今年2月にも妊婦さんが、ジンバ病院に向かう救急車の中で亡くなってしまいました。死因は子宮破裂でした。彼女は過去に帝王切開を受けたことがあり、子宮が破けるリスクがあるので、陣痛が来る前に病院に来ていないといけない患者さんです。ヘルスセンターでの妊婦検診にはちゃんと通っており、ジンバ病院に行くように言われていたようですが、指示に従わず、陣痛が来て自宅出産を試みたようです。患者さんや家族がしっかりとリスクを理解できていなかったという教育の問題の可能性、リスクは理解できていたけれども、病院まで行くお金や交通手段がなかったなどアクセスの問題の可能性もあります。出血がひどいというので、何とか家族がヘルスセンターに連れて行き、そこから救急車でジンバ病院へ向かっていたのですが、残念な結果となってしまいました。ただこれは完全に本来「防ぐことができた死」です。



病院で講義をしている様子(2018年2月)

IFMSA(国際医学生連盟)の学生さんと一緒  
(2018年3月)

この1年間日頃の診療に加え、教育や研究にも力を入れて参りました。分娩後出血や新生児蘇生などについて、実技を交えた講義をスタッフや学生を対象に行ってきました。また母体死亡や新生児死亡症例の検討会をヘルスセンターのスタッフも交えて定期的に行ってきました。昨年ジンバ病院では1712件の分娩がありました。施設分娩の推奨、病院の裏にマザーシェルター(お産を待つ家)を改築したこともあり、これは6年前のほぼ3倍の数字になります。アフリカでは自宅分娩が半分程度あると言われておりますが、安全なお産を提供するための努力が、少しずつ報われて来ているのも事実です。

アフリカの母子保健の現状を6月にイギリスである国際学会で発表することが決定しました。また10月にオランダ、ブラジルである学会でも発表すべく、現在準備をすすめているところです。

またこの2年間で実に37名の医学生、看護学生がジンバに勉強に来てくださいました。実際に診療に参加することで、アフリカが抱える多くの問題を感じてくれたことと思っております。

7月に一度帰国する予定ではありますが、この2年間の経験を活かし、今後も途上国における母子保健の向上に少しでも貢献することができればと考えております。

2年間ザンビアで頑張ることができたのも、日本の多くの方の応援があったからこそだと思っております。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

## クラウドファンディング目標達成のお礼

事務局 福土庸二

Face to Face No.49号で、皆様にご協力をお願いしたクラウドファンディング「ザンビアの地に医療を！手術環境を整え、現地医師が命をつなぐ。」は、募集期間終了を待たず目標金額430万円を達成し、最終的に総額4,714,000円を集めることができました。

あらためまして、皆様のご協力、ご支援に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

現在は、支援する機材のガス滅菌器をメーカーに発注し製造を行っています。7月には完成し、ザンビアに向けて発送することになります。またその後、8月上旬、日本から技術者を派遣し、現地の病院に設置を行ない、使用方法や使用上の

注意、及び、メンテナンスについて指導することが決まっております。すべての活動が終わりましたら、あらためてご報告申し上げます。



\*画像はイメージです。

— 毎年7月は、年会費更新月です。納入をお願いいたします!! —

## ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

## 寄付をいただいた方(書き損じハガキ等を含む)

澤田節子、佐藤千春、能田千春、奥村好邦、わらびの会、飯田俊博、蓬来荘職員一同、尾崎晴仁、林 広・恵子、吉松、秋山キヨエ、高田悦子、白山秀子、河野宗夫、島田久俊、佐伯真由美、小田真弓、川口眞廣、小金渕唯、佐藤佳孝、原井武治、住本利子、寺尾キヨ子、白石勝美、藤本敏男、原田恵子、佐藤佳孝、松村武史、ヤマガタノコ

## 会費を更新された方

大橋瑞紀、饗場和彦・新田恭子、秋月益子、岡 真澄、松田俊太郎、池田翔子、山本和子

- 2018年3月1日～2018年5月31日分
- 順不同、敬称略

## \*TICOの会員になってください！

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICO ニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

## 年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000
正会員		¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。下記までお問い合わせ下さい。

## \*ご寄付をお待ちしております！

団体の運営、活動を支える、皆様からの大切なご寄付。団体に対する寄付につきましても、引き続きご協力をお願い申し上げます。

郵便振替 - 01640-6-37649(加入者名)TICO

銀行振込 - 楽天銀行 第一営業支店(支店番号251)

普通 7657541

特定非営利活動法人 TICO

※カナ入力の場合は、トクヒ)ティコ

クレジットカード - ホームページをご覧ください。

募金箱 - さくら診療所(徳島県吉野川市)に常設しています。

インターネット - TICO ウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

書き損じハガキ - ご自宅に年賀状の書き損じ、余り等はありませんか。ございましたら、是非事務局までお送りください。

## 特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 120-4

電話:0883-42-2271(平日 9:30~18:30)

メール:info@tico.or.jp / ホームページ:www.tico.or.jp

フェイスブック:www.facebook.com/ticohq

ブログ:blog.goo.ne.jp/tico\_blog



TICO ニュースレター Face to Face 第51号

2018年7月発行 発行人:吉田 修